

TOKYO 進化びと

全国でも珍しい広域型の技術移転機関(TLO)トップを務める。大学に眼る技術の民間での実用化を橋渡しするTLOは、特定の大学が設立することが多いが、母体は東京、神奈川、埼玉にまたがる産業振興組織、首都圏産業活性化協会(TAMA協会)。横河電機の元技術者は「大学の数は多いが、大規模な理系学部を抱える大学が少ない多摩につてつげの組織」と語る。

「タマティーエルオー(TAMA-TLO)」(東京都八王子市)の社長、井深

丹氏 井深 丹氏

産学連携、結実夢見て

■最先端の計測器開発へ

TLO「多摩につてつげの組織」



横河電機の技術者だった経験を生かし日々奔走する

丹(69)。二〇〇〇年の組織発足時に、関東経済産業局の仲介で就任した。横河電機では製紙会社が生産管理に使う紙の水分計や、公害対策用の排ガス計など計測機器の開発で実績

をあげ、同社が九三年に設立した横河総合研究所の初代社長に就任。七年間務めた。

「総研とTLOの業務は近い」と説明する。横河総研では技術の移転、指導、汗を流す。

いぶか・まこと 一九三六年、青森市生まれ。六〇年東大工学部卒、横河電機入社。八七年技術開発部門長、九三年横河総合研究所社長。二〇〇〇年から現職。

例えば今年度からスタートした経済産業省の補助事業「安全・安心な社会に役立つ計測制御機器用高度機能部材の開発」。微細加工などを手掛ける地域のハイテク中小企業を核に、電源が発するノイズを制御する大規模集積回路(LSI)、小型光源など低コストでいろいろなハイテク機器に組み込むことができる性能の高い計測制御機器の部材を開発しようというものだ。

「消費者向けの携帯電話やデジタル家電が売れるほど、その生産に必要な工業用計測器の需要も増す」とにらむ。計測器のヒット商品をいくつも生み出してきた技術者には、どうしても血が騒ぐプロジェクトのようだ。

敬称略 (樹)

東京